

## 医療法人社団グッドスリープ グッドスリープクリニック

(東京都港区)

# 睡眠時無呼吸症候群に照準を当て 患者が来院しやすい環境を整備

都心にある浜松町駅、大門駅、芝公園駅の3つの最寄り駅からい  
ずれも徒歩5分の好立地に、2001年にオープンしたグッドスリー  
プクリニック。睡眠時無呼吸症候群に特化した診療スタイルと、患  
者が来院しやすい工夫を施すことにより、多くの患者から信頼が  
寄せられている。



「睡眠時無呼吸症候群については治療よりも教育が必要と感じています。患者さんの自己管理意識を高めるように、医師から多く聞くことが大切です」と語る斎藤恒博理事長

### 立地や診療時間を工夫 1日約100人が来院

「睡眠時無呼吸症候群は治療法が確立しているにもかかわらず、その受け皿があまりありませんでした。多くの患者さんが悩んでいる状況を知り、開業を決意しました」。医療法人社団グッドスリープの斎藤恒博理事長は開業の経緯をこう語る。睡眠時無呼吸症候群専門の診療所としてオープンした同院には現在、40〜50代の働き盛りの男性を中心に1日当たり約100人の患者が訪れる。幅広く患者を受け入れようと複数の診療科目を



治療に使うCPAP装置

標榜する診療所が多いなか、完全にターゲットを絞った診療スタイルで経営の安定化を実現した要因は、同疾患の患者の特性を把握したうえで、来院しやすい工夫を施していることにある。

睡眠時無呼吸症候群は睡眠中に発症するため、患者本人に自覚がなく、睡眠以外に問題がないケースも多いことから、同疾患と診断されても治療を拒む患者が少なくないという。そこで、斎藤理事長は立地・診療時間の面から通院の負担を軽減させて、治療を促す仕掛けをつくった。

まず開業地は3つの最寄り駅からいずれも徒歩5分の立地を選択。そのうち浜松町駅には遠距離列車も停車するため、近隣のサラリーマンはもちろん、遠方からも患者が訪れる。また、仕事帰りに通えるように診療時間も10時半から20時に設定している。「肉体労働者が多い工業地域のほうがニーズがあるとも考えられますが、当院はSEなどIT関連の職種の方が多く通院するなど、オフィス街でも潜在



医療法人社団グッドスリープ  
グッドスリープクリニック  
東京都港区芝大門2-10-1 第一大門ビル  
TEL: 03-5733-1325  
URL: <http://www.good-sleep.or.jp>  
診療科目: 内科



↑個室のベッドサイドには、検査で使用する血圧脈波測定装置が設置されている  
→入院用の個室。夜7時から翌朝7時まで一晩かけて検査を行うため、患者がリラックスできるように、ベッドはセミダブルを採用



↑待合室は色調を抑えて、落ち着いた雰囲気を出している



「患者に寄り添い出すためのCPAP検査が特に重要だ」と語る。



ニーズを掘り起こすことができた」と手ごたえを感じています」と斎藤理事長。  
加えて、わかりやすい診療所名を掲げ、患者に専門性をアピール。ただし、同疾患にかかっていることを他人に知られたくないと思う患者が多いため、玄関は道路から奥まった場所に設置されている。

### 通院を継続させる 丁寧な対応と説明

睡眠時無呼吸症候群の治療は、睡眠中に気道が閉じないように鼻マスクから空気を送り込み圧力をかけるCPAPを使用する。併せて、生活習慣が原因であるため、日々の生活改善を図る。治療の継続性が求められるものの、患者が通院を自己判断でやめてしまいうケースも少なくない。同院が一定の患者数を集められる理由は、来院しやすい工夫に加え、患者が治療に前向きに取り組めるように、データを蓄積し根拠に基づいた説明をする斎藤理事長の丁寧な対

応にもある。

「患者さんは病氣と認識せずに来院されるので、病氣だからこういった治療が必要です」と押し付けるのではなく、「こうすると楽ですよ」と提案するように心がけています」

さらに、診察時の対応だけでなく、管理栄養士による栄養指導など生活習慣改善のアドバイス、月に1回の電話連絡といった努力も怠らない。

過去に治療をやめてしまった患者もいるが、「患者が治療を望まないので、患者が欲しがっているものを提供していないということ」ととらえる斎藤理事長は、そのたびに同院のサービスを改善。「どうしたら患者が望むものを提供できるのかを常に意識する。サービス業に、医師は徹するべき」と強調する。

今年2月には都内に分院を開院。同院同様専門性を強うたうことで、患者のニーズを掘り起こしていく構えだ。「睡眠時無呼吸症候群で悩んでいる方はまだまだ数多くいらっしゃいます。今後事業を幅広く展開していきたいと考えています」